

「55」と私

アラウンド GOGO 55



西園健三

私に、その姿はパワーを与えてくれました。全障研活動や障害者運動とスポーツの両立は、練習や日程調整など大変ながらも私の活力になってるのは確かです。そのなかで、彼の何事にも一喜一憂しない真摯な姿勢からは、その時々で何かしら勇気と忍耐力をもらってきました。

*

昨秋、鹿児島県教研で「県内初の訪問教育で修学旅行」レポート発表の最中、猛烈な

腹部の痛みが襲い、必死で報告を終えた直後、救急搬送されました。腎臓に腫瘍が発見され幸い直ぐに左の腎臓を全摘した結果、九死に一生を得ました。

退院の時、主治医に尋ねたことは、①焼酎をまた飲むのか？と、②野球・ソフトボールはまたできるのか？でした。

隣で、家人が怒っていたのは言うまでもありません。

「さんざん周囲を心配させといて」。

*

中学で始めた野球は、大学4年でプロ野球の数球団から声が掛かりドラフト当日のスポーツ新聞にチャリと名前が載ったことだけで、もう満足でした。田舎の国立大野球部の、指導者もない中、桜島に負けないくらいに「熱」で取り組んだ成果だと納得しました。

養護学校の教員になってからは、ソフトボールにはまり、鹿児島教員団チームで50歳ま

で捕手と主軸を務め、全日本教員大会で準々決勝まで進んだこともありました。

*

この春で55歳になりましたが、「55」と言えば、私にとつて巨人↓ヤンキースのゴジラ松井です。

ある年の2月の夕方、訪問授業の帰り道に宮崎まで足を伸ばし、巨人のキャンプ場を訪れました。弱い西日の中、背番号55が黙々と居残り特打で柵越え連発していました。

鹿児島島の訪問教育の矛盾にめげそうで気分転換に行った

実はソフトボールは、生涯スポーツとして壮年（40歳〜）、実年（50歳〜）、シニア（60歳〜）と年代別の全国大会もあり、壮年大会ではベスト8も経験し、今は実年チームで全国制覇を目指しています。

その前に全障研の全国大会を鹿児島で制覇させることが先決ですが。

もう一つの活力「芋焼酎」の力も借りて。
(鹿児島支部副支部長、特別支援学校教員)